

鉛糖試驗

癩疾治方

急救三法

緒方訣

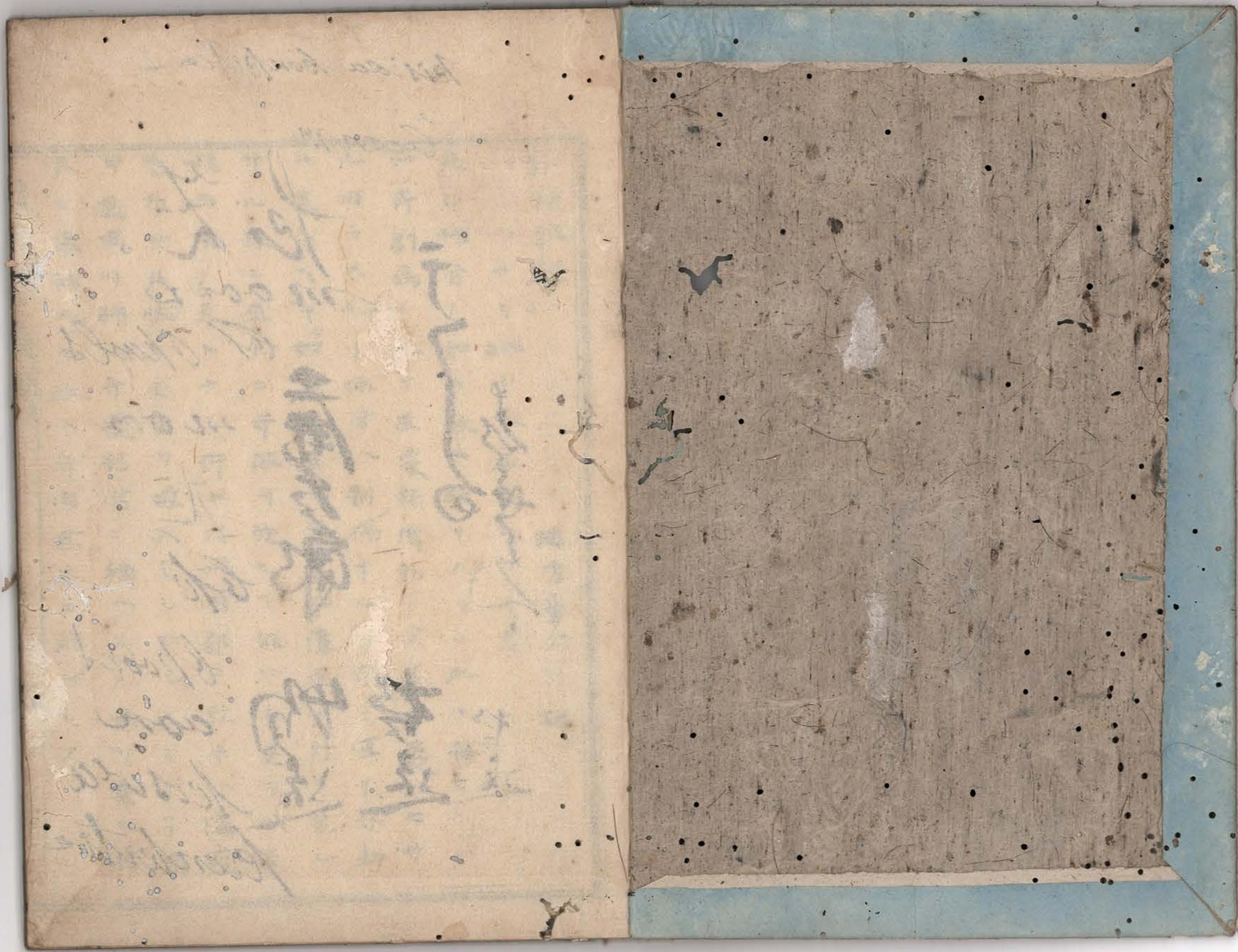
坪井訣

宇田川訣

精得堂藏

醫
齒
治
雜
錄

續



肺病ノ治方ナクニ位トス
 一ノ差治ト云フ本治ハ全リ
 一ノ差治ハ唯テ借症ノ堪工
 可カラサルヲ治スル
 十リ
 一ノ本治ニ属スル薬品ハ
 一ノ吉那依荷土カ遠志阿片
 一ノ諸滋痕割是ナリ而ナ
 一ノ予ハ唯鉛糖ヲ以テス
 一ノ傳効之ニ若リモノナシ
 一ノセリ
 一ノ夫ト鉛ヲ以テ古来内用セ
 一ノルハ固ヨリ世人ノ
 一ノ各リノ所ニナ殊ニ *kinetic*
 一ノ *jointly* 割ヲ
 一ノ以テ肺及ニ肝ノ膿瘍方
 一ノ *resol* 等ノ療薬トセリ
 一ノ然レテナリキナ

一ノ製造タル甚ク分離ニ
 一ノ合セ入何トナレバ
 一ノ今更イゼルヒトリオ
 一ノ此ト鉛糖トヲ取テ之ヲ
 一ノ合スルニ鉛糖直ニニ
 一ノ溶解シ反メ消化ニ難キ
 一ノ固一トドヒトリオ
 一ノトナレハナリ吹ニ由
 一ノ干之ヲ觀ルハ吹ル
 一ノ干キチエトルニハ全
 一ノリ鉛
 一ノ *anti-hectic* *isn* *pat* *ce* *bi*
 一ノハ鉛ヲ含マスト
 一ノ全ニテ以テニ
 一ノスガラスト
 一ノシニキ
 一ノルニ工
 一ノ一ルセルト
 一ノシト成ル吹薬
 一ノ末之ヲ膿
 一ノ清ノ肺様
 一ノ崩漏及ニ遺精ニ
 一ノ傳効アリト
 一ノス而ナボ
 一ノレル
 一ノ此レヲ骨療ニ
 一ノ傳効アリト
 一ノナ
 一ノ檢用シ
 一ノ工ツ
 一ノシ

一 醫者 下 鉛 用 工 ル 規 ヲ 定 メ テ 云 フ 患者 若
 シ 二 朱 ノ 如 キ 劇 症 ニ ア リ 十 七 日 宜 リ 一 斗 七 日
 シ ノ 鉛 糖 ヲ 以 テ 二 十 四 日 同 工 用 工 一 斗 七 日
 又 女 何 等 ノ 毒 見 本 リ ヤ 實 ニ 是 シ 無 替 ノ 忘 談
 ノ ミ 若 シ 此 如 リ 少 量 ニ 用 工 ル 十 八 日 鉛 ヲ 十 斗 全
 ノ カ リ 身 入 達 セ シ ナ 又 何 ノ 能 リ 亦 効 驗 シ 見
 ル 一 斗 得 ン 若 シ 實 ニ 之 ヲ 用 工 十 傳 効 ア リ 一
 斗 飲 ス ル 者 ハ 宜 シ リ 量 量 ニ 用 工 テ シ バ 一 斗
 コ セ 一 斗 運 用 工 日 亦 奇 愈 量 最 モ 良 也
 若 シ 又 誤 治 ナ 此 意 ニ 与 フ ル ニ 一 斗 十 斗 大 何
 危 乃 亡 失 鳩 毒 一 斗 亦 以 テ 七 八 扶 起 セ 新 何
 却 テ

黃 水 ニ 導 リ 學 考 宜 リ 慎 戒 セ 然 ル ニ 世 ノ 医 術
 此 劑 ヲ 以 テ 常 ニ 用 工 ル 者 ア リ 何 リ 亦 無 替 十 斗
 一 斗 甚 也 キ 也 且 川 亦 無 替 毒 術 此 ノ 如 シ ト 亦 却
 亦 傳 効 ア ル 所 ノ 毒 ヲ 以 テ 一 斗 恐 懼 慎 戒 メ 之 ヲ 弃
 危 又 亦 女 棒 販 一 斗 亦 然 シ 氏 肺 病 一 如 キ 危
 劇 一 病 ニ 於 テ 亦 傳 症 劇 リ 患者 之 力 為 ニ 始 一 斗
 死 ニ 類 ス ル 氏 亦 傳 症 ヲ 治 ス ル 一 斗 知 一 斗 本
 病 ニ 害 ア ル モ ノ 亦 女 用 工 可 ナ ラ 甘 ル 一 斗 得
 大 一 斗 亦 傳 症 劇 リ 患者 之 力 為 ニ 始 一 斗
 一 斗 今 鉛 劑 ヲ 以 テ 實 ニ 肺 病 一 良 藥 ト 女 絲 卷 ス ト
 至 此 亦 觀 ヲ 以 テ 切 實 ニ 決 定 セ 一 斗 歌 ス ル 氏 亦

誰レモハ悉ナキトヲ得ニ何トナレハ真ノ肺ヲ
 ハ可治最モ難ナク如キ劑ヲ以テ此ヲ施用セ
 ントシテ亦微症ノ順次ヲ比考スルニアラサシ
 ハ可当否并シ難ナレハナリ
 凡ソ一病ニ施用スル藥劑ハ常ニ可害ヲナサハ
 ルコ以テ佳ナリトス故ニ假令可藥患者ヲナシ
 全ノ快復ヲ得セシメスモ危害ノ諸症ヲ減却ナ
 可性年ヲ伸ハシメハ以テ良知ヲ奏スルトナク
 譽セサルヲ得ス今醋酸鉛ハ肺病ニ於テ諸藥
 中最佳ノ効ヲ奏スルヲ予カ屢々用テ知ル所ナ
 リ學者疑フテ勿レ學者ヨリ常ニ之ヲ用テ習性

凡ハ自テ毒ノ人身ニ害ナキトヲ知ル可シ予カ
 常ニ患者ニ用スル所ノ鉛糖ノ量ハ日ニ六分
 一トシテ以テ而シテ患者症痛惡心及ニ可他ノ
 傍症ヲ奏スルト勿ンハ漸リ増加メ長用ス若シ
 可患者此酢酸鉛ヲ施用スルト門ニ胃部ノ壓迫
 脈部ノ疼痛惡心嘔吐下利等ノ諸症ヲ奏スル可
 小回シテ速ニ可施用ヲ止ムハシ諸傍症直ニ
 治セシ此劑可長用メ害ヲ後ニ殘ス事ハ予未ダ
 曾テ之ヲ見ス唯偶々瘵ノ一患者僅少ノ鉛糖ニ
 及メ久メ直ニ惡心嘔吐下利ヲ奏シ鉛糖ヲ
 止ムトハ直ニ諸症ノ減退スル者ヲ目撃セリ

○ 偶々又鉛ニ由テハゲシキ下利ヲ免スル者アリ
 リ然レハハ直ニリ阿セテハハテ之ヲ拒ルハ
 シ
 鉛糖ハテ性甚ク患者ノ瘻ニ慣馴シ易キカ故ニ
 テ用量日々増加スルヲ要トス今ソレ雖日ハ
 一ゲレイン半許ノ鉛糖ヲ以テテ便利發汗増加
 セハテ体中止リテ効ヲ奏スルモノテレ減許リ
 直ニリ増加ト用ニスハアラス
 鉛糖ノ肺管ニ投テル力ヨリ皮表ノ血管管ト
 肺管ニ投テル膿液分離シテテ収縮シ以テ良液
 散溢シ拒キ膿ノ分離ヲ減却シ因テテ肺部ノ瘻

瘻ヲ宣成ス然レ肺中ニ創瘻ヲ生シ殊ニ許
 細膿胞ヲ成スニ至ラハテ最ニ難ク此劑
 モノ全効ヲ奏シ難シ然ト雖モ學者ヨリ覃思
 テ依候ヲ考ヘ保々ニテ用量ヲ増サハ幸ニテ
 瘻瘻ノ膿ノ減退ヲ得ルコトアリテ若シ以テ
 者ニ危重多ク許テ此劑ニ由テ拒テ又スルコト
 得ハテ利益又ク如何リ
is to der seickte
gel dem daver dem seickte see on my foot
As like kein gen die is
 此ハ鉛糖ト共ニ致那各膏ヲ用テ且テ後
 類ノ膏ヲ用テ以テ患者ノ精カト諸膏ノ増進ス

Melleoem melleoem A. g.
mg nil no vid no coasp i em Glycoph

右每二枚ニニ丸ヲ用ニ症ニ隨テ一ニケシイ
一阿片ヲ加フルアリ
又肺癆ニ於テ錠ヲ乃処ニ用ル一種ノ方アリ是
鉛ヲ過熱ニ溶カシメテテ蒸氣ヲ吸引セシメ若
リハ甚ク乾燥セル白糖ヲ取テ散飛スル積ヲ吸
ハセシムルナリ
予今將ニ此用法ヲ以テ廣リ試驗セシトス以テ
説示スル所ノ各劑施用一ニ一ニ試驗ハ是レ予カ
訪疾録中記スル所ノモノニハ或ハ肺癆ノ全リ

治癆リ得或ハ否ニナルモヨリテ諸症ヲ減退シ
テ患者ノ生命ヲ伸ノシテ所ノ者ナリ

Pistacopem

Behaard am pistaca piam
pistia

Behaard am pistaca
pistia
W. o.

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

弥布温温列布羅奇驗方
列布羅治法
列布羅治法

予力見此所以予久ハ此治法ヲ分テ三綱ト
ナス一尤当シリトス○第一綱預防治方第二綱
究理治方第三綱妙効治方是ナリ

予第一治ハ凡リ体中ニ在ル邪毒此病ノ原因ト
ナリ予此ノ如キ患害ヲ催起スル所以者ヲ駐
除スルニアリ○予善ニ治ハ患者ノ染テ致シ健
康ニ復ス所以ハ此置ニアリ○予善ニ治ハ

昂或ハ蒸気浴ヲ以テ患者ノ表田ヲ清淨ニシ表
發蒸氣ヲノ常ノ如リナラシメ鮮屑及ヒ病人如
キ者ヲ緩和シ以テ亦表田ノ体質ヲノ常ノ如ク
ラシム可シ○列布羅ノ症候未タ甚シキ原因了
リテ体中ニ振極スルニ非ル者ハ尤モ此ノ如キ
預防治法ニ因テ良能ノ力ヲ扶助スル件ハ自ラ
愈ニ

究理治法ヲ論ス
狀治法ハ一ハ病理學ノ則ニ從テ之ヲ治スルナ
○差ニ堅硬不消化ノ食糧或ハ右部ノ分難極
ヲ失スル等ニ因テ腸胃中汚物ヲ生シ此ニ因テ

更衣不可者或ハ門脈中血液運行ヲ妨害セシ者
ハ腹下利ヲ施ス可シ体質稍刺衝性ニ傾リ者ハ
清涼劑ヲ用ヒ之ニ反テ運行急慢ニ属スル者ハ
刺戟臭奮ノ劑ヲ用フ可シ即チ大黃葯刺巴芦會
蔡芦等是ナリ或ハ甘草ヲ加フルモ可ナリ○右
ノ此病ニ厚血ヲ施ス處アリ然レモ此處ハ刺戟
或ハ水蛭角蝨ヲ論セ又皆不當ナリトス○差ニ
其患者ノ体質傍老ノ諸症ニ軟衝性ヲ帶ニ果メ
厚血ノ目的ヲ露ス者ハ止ムヲ得ス慎戒ヲ示
老人ニ從テ可シ
○養生法ヲ腹ス食糧ヲ節ニシ以テ神經ヲ極振

或ハ大ナル奇効ヲ奏シ或ハ細否ラサレ者アリ
 ○奇効割ハ内服外用ヲ稱セ之其數極メテ許多
 ナリ若シ此病ヲ療スル者預防法ニ依テ其原因
 ヲ除キ或ハ究理治法ニ由テ其治ヲ施スト至極
 掌テ其効ヲ見ザレバハ恒リ此割ヲ撰用ス可キ
 アリ而テ之ヲ撰用スルノ甚々難シトス蓋シ匠
 家ノ所見各異ニテ造表ノ經驗或ハ異同アリ且
 ノ術者甲ハ稱用スル割ニハ以テ否トナシ乙ノ
 奇効スル処ナレヲ以テ奇効割ノ撰用極メテ難
 尙ニテ夫々一定ノ規則アルナリ
 ○古人然病ニ於テ峻下割ヲ稱用ス殊ニ黑藜芦

白藜芦ヲ稱用ス○加羅藤尼葯刺巴若金等ニテ
 此等ニ充テ可シ○蓋シ下割ハ只ニ快ヲ一舉ニ
 取ルニ足ルト至極未々十全ノ快復ヲ致スレ能
 ハス○蓋シ患者脈管ヲ内淨ニ表因ノ患腸ニ引
 導ス
 ○安胎護胎製割及ヒ尋常安胎護胎ニ硫黃礬ヲ
 加ヘタル割ヲ單用トシ或ハ複用トシニ做ニ効ヲ
 奏シ或ハ金リ効ナシ他シレニビ一ニセアイン
 ン
 ○水銀製割或ハ大ニ稱用シ或ハ大ニ毀損ニ他
 ニ製割セシミンクニ良劑トシレハイブクニ効ナ

担ハシ製伏ス蓋シ此二箇ノ若相合ナリ
 プラハ原因タレハナリ
 ○右ノ此病ニ坂ヲ称用セリ而ナ亦用方モ亦一
 ナラス
 ○或ハ干肉ヲ末トシ或ハ蒸テ羹汁トシ与フ坂
 皮以テ或ハ効症ヲ難ク養畜ニ患者ヲナ其難内
 ヲナ其食ハシム
 ○管此用ナシ
 ○芫菁下效雖宏余他ノ頑固ナル皮膚ノ痛ニ於
 ケル如リ亦々以テ乳ノラノ奇効割トセリ○
 凡ルテ此白及ハハルコノコノルハ之ヲ以テ其

効未見ス○ニイトツトウイン及ニケレイン
 ハ此劑ヲ以テレプラノ有力割トセリ或ハ頑固
 一症ニ之ヲ用ニテ四週ヨリ六週ニ至リテ全治
 スルヲ見ル○其用法ハ四滴ヨリ其馬ニ至ルマ
 テ緩知ノ茶汁ニ和メ与ハ漸次ニ進テ十滴ヨリ
 十五滴ニ十滴ニ至ルガ然レモ漫リニ其量ヲ増
 シ或ハ忘意ニ之ニ久服セシムルト勿レ蓋シ此
 劑ハヨリ飲食消化機ヲ害シ四ツ諸般ノ患ヲ害
 シ生スルトアレハナリ
 ○草木中ニモ亦ヨリ列布羅ニ効アル物諸品
 リ詭々ナリサハリルヲ端考皮榆皮リユスラス

榆皮洗除刮水銀膏也。二硫黃膏汁。三。如猪脂。四。
 二和。三。每夜患部。二。擦。刮。三。每朝。正。酸。温。水。若。一。
 八。羅。低。稀。水。以。于。清。除。又。同。取。二。硫。黃。以。于。製。
 又。儿。里。没。那。堽。若。野。菜。莖。煎。汁。以。吸。也。三。ム。〇。此。
 刮。二。中。于。結。痂。自。一。鮮。脫。三。皮。膚。酒。足。以。生。三。瘡。五。
 亦。隨。于。自。一。散。又。〇。療。法。損。害。十。日。十。二。日。日。百。
 九。日。二。至。儿。〇。取。卜。十。八。粒。キ。反。動。以。生。又。〇。又。景。
 狀。二。從。于。水。銀。諸。藥。及。二。他。一。礦。物。一。軟。化。膏。以。佐。
 用。ス。ハ。シ。
 〇。浴。法。モ。亦。療。術。一。十。日。以。于。皮。膚。以。清。淨。二。シ。
 蒸。氣。以。纏。進。又。〇。病。危。未。以。大。二。侵。裏。七。又。二。針。一。其。

果。呪。信。成。以。布。望。七。八。第。一。區。浴。法。洗。除。法。蒸。湯。法。
 蒸。氣。時。亦。可。試。之。南。后。硫。黃。泉。及。二。硫。黃。以。于。製。
 三。夕。儿。浴。湯。羅。低。浴。湯。海。水。浴。亦。以。用。二。可。シ。蓋。三。
 海。水。浴。ハ。最。効。區。二。十。浴。之。南。后。海。中。二。拉。于。浴。又。
 一。シ。〇。友。二。当。于。痂。一。進。襲。ス。ル。以。防。カ。ハ。為。二。反。
 該。數。回。浴。法。以。施。ス。可。シ。〇。バ。夕。一。水。レ。フ。ラ。レ。三。
 暖。効。以。備。一。飲。割。美。二。浴。湯。ト。シ。用。二。〇。曾。于。患。者。
 八。十。二。人。以。浴。以。行。一。其。内。五。十。二。人。愈。二。二十四。
 人。稍。快。以。得。夕。リ。〇。余。他。古。今。款。用。三。未。ル。好。藥。以。
 九。二。朽。木。ス。

明。卷。硫。黃。硝。石。生。石。灰。石。胆。膽。

羊糞 人尿 熊胆 燕窩 白百合

右ノ諸薬ヲ実験スルニレプラニ於テ其驗ナシ
○其酷厲性ニハ其他腐爛侵蝕ノ諸薬乃ニ芫菁
膏ホ亦取トテ施用ヲ要ス○外見ヲ飾ラシガニ
收ノ如キ諸薬ヲ施ス右皮膚其腐爛侵蝕ヲ被リ
其部ニ於テ新ニ皮膚ヲ萌起シ而シテ竟ニレプラ
ノ真症ヲ次リアリ○身体ヲ清潔ニシ戒慎シ作
業ヲ適宜ニ十分ニ保持スルニ由テレプラニ芫
製スルアリ○自然良藥芫菁ヲ須メ此病ヲ復良
スルアリ
若者總テ経久諸病ヲ以テヘルプラトシテ莖収水

泡状病状鮮局状腫物此等ノ諸此ニ隨テ單依ニ
分リ○年十ニ者ハ際リ身体諸毒根拠ニ根拠シ即
人皮膚ニ異性ノテイスカラシトテ癩ス○其板
ナル者ハヘルベクセ他ノケイスカウシエント
相合シ癩ス便チシカシエセ梅毒性癩病性癩斯
性木節腫性ホノヘルベクセ是ナリ
ヘルベクノ近因ハ一種ノテイスカラシト目
リ来ル一異變動ナリ故ニ他ノケイスカラシト
ノ如リ妙効薬ヲ望ム○安房菴古加里ノヘルベク
スニ於ル硫黄ノスカシエセ水銀ノ癩瘰癧性ニ安
眞護根ノレプラニセテ伊遠尔護ムカニキヤマ子ニ

セテイスカラシユシニ於ケルカ如キ各種ノテ
イヌウラシユシノ姉弟茶ト一般ナルカ故ニ
リアリ氏安豆羅右加里トヘルズスノ妙効タ
シ諸ノコムアリセパンヒンアヒセール匠茶
トセントス

○安豆羅右加里ユールエンカルキハ石炭ト腎
典極加里ト燐化セル者アリ色石炭ノ用口ス蓋
セ其水ニ燐化
○製法
新製ノ腎典極加里七号極末ノ石炭五号ヲ取
リ午ヲ留メス氣和燥化シ火ヨリ下ニ下ラセ

バライルニ置タルハ細ニ入シ未詳草ニ乳汁
佳ナ代用メ極末同等ノ軟ニ至ルニテ研磨シ一号
容ノ硝子壺ヲ置メ因密ニ以テ貯テ

○硫化安豆羅右加里
○製法
前方中硫黄ヲ加ヘ得色加里トス製法前
○同シ

○安豆羅右加里ハ軟ニ大純潔ナル散末ナリ其
味酷厉羅依塩ノ如リ名ニ至テ熱火燒カ如リ煤臭
アリ○大氣ニ觸レテ湿ヲ引リ熱ニ流動スル

ニ至ラヌ乾燥ノ氣ニ逢ハ再ニ湿ヲ返シ隨示亦

羅經樣ノ味ヲ失スニ至余竹兒ニ投テ些少溶解シ
 差涌承ニハ甚ヨリ溶解ス〇精密ニ製シタル品
 ハ溶解大其底日等ノ秤量アリ真液ヲ蒸溜スル
 ニ其色ヲ失フス若シ其色ヲ失スルハ製造精ニ
 ナラザルカ故也〇効能ハ健康ノ人ニ一日ニ三
 羹汁ト極メ安多羅古加里十人ヲ十晩ニ与フ而
 合血液大ニ表皮ニ烈流シ恰モ灼力如リ脉速関
 節急慢夜ニ及テ大汗淋漓晨ニ徹ス而メ大ニ下
 下スル下而回度^皮而^下ヲ經テ尚湿润セリ
 〇用法 經久皮膚ヲ患メ消食極損害ナキ者ニ
 ハ後方ヲ与フ

安多羅古加里 三人 甘草 五人
 右昆布一匙ト為ス一日ニ三匙或ハ四匙ヲ与フ
 或ハ患者ニ与テ即夜先^ハ起然シ次^ニ脉實ニ以
 速ニ全身発汗メ表皮灼力如キヲ覺フ〇又患者
 ニ由テ五^日或ハ七^日十^日二十^日其^日甚シキハ
 五^日十^日ニ至テ上ノ諸症ヲ免スル下アリ〇発汗
 量分濕ナレ氏又少シ冷ニナリ〇其汗始メ数粒
 ニ限ル終夜免スルニ至ル然レ氏曾テ衰弱ノ頭
 下サス却テ健康ヲ復ス〇発汗愈稀^ニ局部ニ濕付
 或ハ冷汗ヲ余ス其經過ノ間一定セ久〇身分此
 汗皮膚ニ侵テ几部或ハ腕下手頸脚尻陰部亦

又確徵トス〇總体ノ變動大甚ニ過ハ、安多羅
 右加里ヲ停止スルニ至ラス〇拵拒ヲ挺發スル
 最動ニ於テ消長機ヲ瘳ス而テ愈ハ否〇順序ノ
 脈ヲ變動ノ終期及ニテニシカシ、一快後ヲ微
 ステイスカラエ、一八元表変性ヲ素トスル者ノ
 ナリ
 疏花安多羅右加里、其効安多羅右加里ヨリ迅
 速ナリ然レモ安多羅右加里ハ其上位ニ抽シ又
 何ントナシハ緩徐ノ効力彼ノ迅速駿ヲ一眩ニ
 頭ヲスニ優ルハナリ
 〇良善ノ握庄ヲ保持スルハ弱年ノ徒順良ノ形

況ヲ得ルニ從テ七月ヲ経テ快復ヲ得、四十五十
 齡ノ輩ハ四年ヲ経テ其域ニ至ル〇此経久瘳恠
 効ヲ医案ニ假テナルモ亦ヨク疾病ヲ快復シ且
 〇リ医案ノ効力ヲ逞シカラシムルノミ

中ニ混和スルニ酸ヲ加フシモ滾動スルヲ甚少
 ク又ホトア不^レ成^レシモ汚^レチルハ此^レ既^レ銳^レ裂
 上好ナル候トス硝子ノ漏斗ニ布片ヲ重^レ子^レシキ
 是^レモ右^レ液^レ汚^レ内^レ子^レ硝子^レ壘^レニ滲^レ漏^レセシ大^レ佐^レ少
 シ絞^レリ^レシ其^レ液^レ汚^レ火^レニ上^レセ水^レ尻^レヲ蒸^レ散^レシ減^レチ
 ハ^レ少^レノ量^レトナシ是^レヲ大^レ大^レ硝子^レ壘^レニ積^レシ^レテ
 固^レ封^レチ^レテ^レ澄^レ清^レトナルニ至^レテ其^レ渣^レヲ去^レリ硝
 子^レ壘^レニ収^レメ硝子^レ塞^レニテ固^レ封^レシ^レテ^レ貯^レチ
 ○固^レ性^レ硝石^レニホ^レリト^レア^レス^レノ代^レ用^レト
 製^レ法^レ
 甘^レ錫^レ斗^レ火^レニ上^レセ漸^レリ火^レヲ加^レハ精^レ製^レ硝石^レノ末^レヲ

投^レメ^レ焙^レシ^レ是^レニ本^レ灰^レノ通^レ紅^レナル小^レ片^レ若^レリハ其^レ細
 末^レヲ以^テテ少^レ許^レ宛^レ投^レ又^レシハ爆^レ声^レヲ発^レチ^レ焚^レ燒^レシ^レ數
 ニ是^レヲ投^レメ^レテ^レモ^レ焚^レ又^レ消^レ石^レ凝^レ固^レス^レルニ至^レテ愈
 火^レヲ増^レシ^レテ^レモ^レ烟^レ氣^レナ^レキ^レテ^レ度^レト^レシ^レ於^レ冷^レス^レハ
 硝石^レニ^レ奈^レメ^レル^レ塩^レ尽^レリ^レ攪^レ化^レメ^レ白^レ綠^レ色^レノ^レアル^レカリ
 塩^レト^レナ^レリ^レ氣^レニ^レ觸^レル^レハ^レ速^レニ^レ溶^レ解^レス^レ是^レヲ^レ席^レ帛^レニ^レ焙
 火^レニ^レ上^レセ^レ煮^レ乾^レチ^レテ^レ乾^レ固^レノ^レ白^レ塩^レト^レ為^レス^レ之^レヲ^レ又^レ細
 末^レト^レナ^レシ^レ壘^レニ^レ入^レシ^レ炭^レ火^レニ^レ上^レセ^レ通^レ紅^レニ^レ至^レシ^レム
 此^レハ^レ白^レ色^レト^レナ^レリ^レ是^レ固^レ性^レ硝石^レト^レナ^レリ
 ○生^レ石^レ灰^レ

石炭ニ水返直リ加ニ煉リ産スルレ燒リニ取許
大氣ニ鋸レサリシムルヲ要ス
試ニスワレルシニ投スル沸騰也
其ル者ハ上好ノ品トス
此ノ中ニ出ル者ハ皆ニ
此ノ中ニ出ル者ハ皆ニ
此ノ中ニ出ル者ハ皆ニ
此ノ中ニ出ル者ハ皆ニ
此ノ中ニ出ル者ハ皆ニ
此ノ中ニ出ル者ハ皆ニ
此ノ中ニ出ル者ハ皆ニ
此ノ中ニ出ル者ハ皆ニ
此ノ中ニ出ル者ハ皆ニ
此ノ中ニ出ル者ハ皆ニ

和南救急三法 宇田川玄真 譯述

救急奇驗三法

救急三法ハ才一溺死ヲ救ニ才二凍死ヲ救才三
初生児虚弱ニ才死胎ノ如キヲ救フ法ナリ
○救溺死小引海條ニ小引ハ真冠ル河ナ
按ニ都鄙共ニ年々水死ノ者少カラズ或ハ船覆
リ或ハ過テ水ニ墜キ或ハ岸ニ朽橋ヲ人夥リ渡
キ橋落テ溺死スルノアレハ的實ノ良法ヲ以テ
救治シ奇驗ヲ奏スルヲ稀ナリ又將取水中ニ沉
ムル者ハ虚弱ノ人ハ忽チ死ス況ヤ救取ヲ經ル

者必死之属ノ医者治療ヲ施サズ是レ從來
 和漢ノ医層ニ未ダ的實ナル良法ヲ截サレハナ
 リ
 ○ユンスル昏ト云ハル同ノ証証ハソ弱ノ人
 半日ヲ経ルト至死ニ記ス療法ヲ施セハ固生
 活スル者有ルヲ記セリ今世ニ通例溺死ノ療
 法ヲ見ルニ多クハ开服ヲ緩擗シテ水ヲ吐シテ
 シトス是レ益十キノミナラズ大ニ害アリ开故
 ハ和尙ノ医説ニ拠テ考ルニ溺死ハ水ヲ吞ニ由
 テ死スルニ非ス呼吸ノ窒リテ死スルナリ开故
 ハ水中ニ在テ呼吸スル寸ハ水忽チ气道ニ入

噎塞スル故ニ咽喉間合ノ機轉ヲ為スル能ハス
 呼吸又速力ニ塞ルユヘニ水ヲ多ク吞テ能ハサ
 ルナリ或ハ开服多ク大ニ脹ルヲアルハ开塞リ
 タル氣出ルヲ能ハス大腹中ニ緊満スルナリ故
 腹部ノ力ヲ極大絞擗スレバ水ヲ吐テ多カラサ
 ルヲ以テ知ルヘシ又此ノ如キ處暴ノ治法ヲ施
 ス寸ハ却テ之カ為ニ胸腹内ノ血脉破裂シヤ
 モスレハ血ヲ吐スル者アリ然レハ此ノ如キ誤
 治ニ由テ益、人ノ主路ヲ断テ愈、死地ニ入シ
 ムト謂ツヘシ又和尙ノ溺死ヲ救テ諸方中ニ水
 ヲ吐カシムル一方善テ十キヲ以テ知ルヘシ是

救急ノ和行ノ医者ナリトバニリンホノ説ヲ
 撰ムテ尤ニ説ス此ノ如キ非常ノ患庭ト多ク尚
 能ク細蜜ニ心ヲ用ミ人カヲ弱セルノ實ニ性年
 ニ係ルノ救深リ慎ムテリシテ他ノ未整ノ比ス
 ハキニアラス況ヤ尋常ノ諸病ニ救テ智巧ヲ究
 ムルノ以ニ準メ知ルハシ然レ任從來來幾ノ良
 術ヲ世ニ唱明シ象厥ノ危厄ヲ救ヒ矢折ヲ免ル
 テ天年ヲ全セハ人世ノ大幸何シカ之ニ加ヘン
 猶天是道ヲ遐弃セス將來説學詳細ニハ医術隆
 盛ノ日至ラハ永世無究ノ快沢ニハ不朽ノ鴻業
 ト謂ヘシ

救溺法

方一、溺死ノ人水中ヨリ引揚ル寸ハ速ニ近隣ノ
 家ニ竿表ルベシ此ハ先ヲ轄ニ軟十ル裊幕シ
 キ或ハ卒カニ此ノ如キ物無キ片ハ救カニ打タ
 ル縮稿ヲ敷キ廉暴ニ取リ扱テ十ナリ徐カニ轄
 セ途中ニ傷指セサハ様ニ心ヲ用テ家ニ入ル救
 カナル裊幕ヲ敷キ頭ヲヤ、高リシ卧サシム
 シ仰卧セシムルノ十カレ又开室ヲ甚ク温煖ニ
 スルノ十カレ
 方二、病人ノ衣服ヲ大區ニ乾シ各ル手巾ノ干物
 身を被ニ乾シタル處ニ細綿ヲ區々于頸ノ際

其體身之厚リ搦被ニ又控相摩シ温大子以
 二シ震ニ毛織ノ仲羅春温ナ子手更下脊
 シ頻々ニ擦摩シ又毛ノ柔力十ル梳帚ノ更シ温
 ナテ腹ヲ按テ動揺シ殊ニ上ノ方ハ摩擦ス入レ
 右ノ一ノ擦法ヲ將リ毛体メス長リ行ヘシ
 才ニ又右ノ一ノ擦法ヲ行フ中ニ腕ニ刺絡シ殊ニ
 頸ノ靜脈ニ刺絡メ血ヲ厚ス下シ若シ出血セサ
 ルハ心之ニ拘ラヌ右ノ如リ愈ハ一ノ擦スハ然
 モ并刺絡シタル元必ニ心ヲ着分ルベシ諸部ヲ
 摩スル中ニ看ラヌ血送必大ニ驚クテレハ
 ナリ

方四右ノ如シ法十同取日病人ノ口ニ氣ヲ吸入シ
 肺ノ臟ヲ張ラシムルハシノ并筒便ナル法ハ壯
 實ナル人ノ一ノ病人ノ一ニ接ナカレ極テ息氣
 ヲ吸入シ肺臟ニ充テ張ラシムルハ但ニ并孔ヲ
 塞リ入レシ然ラザルハ并氣漏散ナ肺ニ入
 難ナレハ也○左ノ如リ氣ヲ吹入ル若シ吹入
 人無ハハ纂纂或ハ遠亘ノ管ニテ吹入ルハ但
 シ纂纂ニテ毛管ニテモ并端ヲ温シタル綿布ヲ
 巻キ病人ノ口ニ入レ唇ノ管ノ周圍ニ押シ合セ
 下氣ノ漏レサレ様ニシ又鼻ヲ塞キ纂纂ヲ搦
 吹入ルニ氣ヲ吹キ入レシ○或ハ煙草ノ煙ヲ

吹入ルモ直ニ以烟氣ニテ肺ヲ薰衝ニテ生氣
 シ誘発スルハナリ。又、
 才五右ノ諸法ヲ施ス中ニ赤烟草ノ烟ヲ病入
 ノ肛門ニ勉強ニ吹入ル、下肝要ナリ之ヲ吹入
 ル、ニ烟草ケレ、ス、外科、附、云ヘル器カ
 リ然氏急率ノ同吹器ナキハ丸ニ記ス符便ノ
 ニ法ヲ撰ミ施スハシ。○开一煙草唇頭ヲ去リ开
 嘴ニ由テ壅阻病人ノ肛門ニ挿ミ烟草ノ烟ヲ滿
 口ニ含ミテ唇管ヨリ力ヲ拮テ頻リ肛門ニ
 吹入、之ヲ体ナリ更ル、長リ施スヤシ
 ○开ニ烟管一本ニ一同ニ烟草ヲ填メテテ火ヲ

点シテ一本ノ嘴ニ由テ塗リ肛門ニ挿ミテ火
 ニ一本ヲ火皿ヲ圍リ接合テ嘴ヨリ頻リ更ル
 ノトトリカ又烟ヲ吹入、シ。○右ノ之法ト同リ
 取ニ温醋或香氣銳烈ナル菜精ヲ面部殊ニ顯顯
 ニ廣擦シ又之ヲ鼻ニ嗅シムヤシ此ハ鹿角精確
 砂精ノ如シ若シ此藥精無中ハ礬醋或ハ特製ナ
 ル火所ニテモ可ナリ。○或ハ噓タバコ藜芦根マ
 ニテ十茶種芸香胡椒等ノ葉ヲ取テ細末トシ取
 ヲ少シツ、鼻中ニ吹入レテテ神至テ衝動ス、
 シ但シ之ヲ一頓ニ去リ吹クテ勿レ。
 本ノ諸法^法ノ屢徳スル、一、二、坂モ体マ

右諸法ヲ暫ク施ス中ニ汗壅ヲ漸次ニ宣旨ハ
區煖ニスヘシ

才七病人獲生スルニテハ一切飲汁シ口中ニ注
リテ勿レ嚥下ス。下能ハサレ故ニ益ナキ。ミナ
ラス却テ口中ニ氣ヲ吹入ル、ニ害アリ。一
〇蘇生セハ速ニ飲糲菜ヲ与ヘシ然レ燕下力
甚タ弱リナ咽々噎ニ易リエ上ニ甚ダ心ヲ用ヒ
テ少シツ、用フヘシ
才八蘇生セハ更ニ相辱ヲ區メテ卧シテ灰或ハ
塩ヲ牛巾ニ捲ケテ八摠身ヲ擦ラヌヘシ

才九飲食ヲ進下スルヲ得ハ煎茶ニシキニ又
ル、スリイリナリナリハ製利少許ヲ加ヘテ飲シ又
又午中ヲ温メテ午更ト昔ヨイヨ、頗ニ標ス
ヘシ
才十己ニ獲生メ後ハ重キ疾病ノ患者ノ如ク調
護スヘシ

救凍死法小引
按スルニ凍死ハ療法モ亦知僕ノ送居ニ的実方
ル説ヲ不見寒国ニテハ多ク患フルニテ却テ
民間ニテ畧台驗ノ法ヲ傳フルアリ然レ此ノ療
法ハ大ニ体ヲ弁スル者少ナシ動モスレハ紫火ヲ

一、澤州或ハ區帰ニ長ス、身ノ大害アル治方ヲ施
 一、アリ往年一賤夫、際在雪中、歩行シ凍付シテ、
 人莫リ省セズ、速ニ人家ニ歸入シ、一医ヲ指拜シ、
 一、葱白煎汁ヲ以テ擦身ヲ、慢ニ蒸ス、一、時半リ
 愈、全身氷冷ナシ、死スル者ヲ見タリ、今九ニ誤
 スル尚説ヲ見、一、ハ右ノ蒸法モ又害アリ、却テ可
 死ヲ促ス、リヲ知レリ、因テ九ニ尚説ヲ誤ナ凍死
 一、救フノ一助ニ備フト云フ
 救凍死法
 嚴寒ノ暇令長途ニ歩行スルホニ、一、手ニ或ハ身
 体ノ一、二個処、一、ニ凍傷スル、一、アリ、此ハ并部、
 一、

痺ニテ痛疼ニ覺ヘズ、強硬不遂シテ、白色ナリ、
 此症ハ雪或ハ氷ヲ搗碎キ、氷中ヲ加ヘ、此ヲ以テ
 一、凍処ニ頻リニ一、擦ス、一、シ、此ノ如ク、指リ、一、擦
 ス、一、ハ、一、可、一、必、一、漸、一、リ、一、熾、一、熱、一、シ、一、テ、一、痺、一、ヲ、一、差、一、シ、一、治、一、ス、
 一、〇、然、一、レ、
 一、一、後、一、直、一、ニ、一、火、一、爐、一、或、一、ハ、一、焚、一、火、一、等、一、ニ、一、一、温、一、ム、
 一、ル、一、ニ、一、十、
 一、カ、一、シ、
 一、惣、一、身、一、悉、一、リ、一、凍、一、傷、一、シ、一、息、一、脈、一、俱、一、ニ、一、絶、一、シ、
 一、生、一、活、一、ノ、一、候、一、ナ、
 一、キ、一、者、
 一、ハ、一、丸、一、ノ、一、療、一、法、一、ヲ、一、施、一、ス、
 一、バ、
 一、シ、
 一、才、一、一、病、一、人、一、温、一、煖、一、ナ、
 一、ル、一、室、一、ニ、一、入、
 一、ル、一、一、十、
 一、カ、
 一、レ、
 一、或、
 一、ハ、
 一、區、
 一、々、
 一、ル、
 一、野、
 一、奥、
 一、ニ、
 一、卧、
 一、セ、
 一、シ、
 一、ム、
 一、ル、
 一、一、忽、
 一、レ、
 一、物、
 一、身、
 一、ヲ、
 一、煖、
 一、ム、
 一、ル、
 一、一、連、
 一、一、一、〇、
 一、一、病、
 一、人、
 一、ヲ、
 一、冷、
 一、所、
 一、ニ、
 一、卧、
 一、サ、
 一、シ、
 一、大、
 一、口、
 一、ト、
 一、糞、
 一、ト、
 一、一、一、

方ハシテ身ヲ周リ雪ニテ被ニ且雪ヲ抱身
 ニ周リ押着ケ置リハシテ後若シ雪融テ物身中
 剥ケタル所在ハ速ニ雪ヲ取テ固リテ処ニ着リ
 ハシ
 方ニ若シ雪十キハ綿布ヲ二襪或ハ三襪ニ置
 ミ此ニ氷ヲ浸シ又氷ヲ搗碎キテ寸間ニ夾ニ以
 ヲ以テ病人ノ抱身ヲ周リ被ニ卷リハシテ中ニ
 抱身乾ケル処アリハ速ニ氷水ニ浸シタル綿布
 ヲ被ニ治スハシテ如ク即功ナリ且必ス
 急ラズ頻リニ布ヲ氷水ニ浸シ抱身ヲ被ニ
 治スハシテ必ス頻ラズルナリ

方ニ右ノ法ニテ生活スル寸ハ午中ヲ温大テ終
 身ヲ拭ニ乾カシ衾蓐ヲ温大テ卧セシムハシ然
 レモ寸室ハ温煖ニスルナリ窓戸ヲ閉キ寒ヲ
 スハシテ飲汁ヲ啜下スナリ得ハ煎茶一椀ニ備
 施所少許或ハ酢少許ヲ加ヘテ飲シムハシ
 方四此症全快ノ後卒中或ハ斯ノ如キ惡症ヲ獲
 ズルナリアリ或ニ預メ此ヲ防リニハ漸リ快復ス
 ル頃刺絡ヲ行フハシ又九ニ記スル散茶ヲ一椀
 差リハ一椀半毎ニ小刀尖ニ一掛ツ、用フベシ
 元方

竜胆一椀 至利 煇硝十椀 二り子レヤ一椀

左調白ニ散利トス
 ○漸ク快復セハ消化ニ易キ食物并ニ嘔けノ委
 シ進メテ室ヲ乾リ温煖ニスヘシ
 才立快後ノ復尚午立之支節麻痺スル所アラハ
 新説ノ如リ全愈スルニ至テ或ハ氷水ニ手中ヲ
 浸シテ亦必シ卷キ被フヘシ
 摠括
 右ノ救溺法ト救凍死トノ諸療法ヲ漸施シテ
 功ナシト至レバ必ス壓倦セテ少間々モ休マズ
 勉メテ久リ施スヘシ
 又右ノ諸法ヲ效サズ急リ行フヘシ一法ト至

氏談ニスニテ急リ弄ルト勿レ毎次初メ指リ
 施シテ功ナキモノ久リ施スナシ一途ニ至功ヲ
 収ムルトアレハ也又一法ニテ効ナキモノ諸
 方ヲ兼施ナ能リ効驗アレハナリ又右ノ諸方
 ヲ前説ノ如リ順序正リ綿密ニ法ノ如リ行フ
 ヘシ前後乱錯忽卒ニ施スルナレ○強ニ氣
 ヲ肺ニ吹入レ總身ヲ標ス者氣烈ニキ菜精
 ヲ嚙シムル木ノ法モ兼暴ニ施セハ却テ大害
 アリト知ルベシ
 ○按スルニ略温母脈中ニ在テニ死ト生
 日新齋藏

者八日五日其機十時真ノ死臨ニシテ回生スハ
 本理十ニ然氏 刺 稟賦薄弱十ハ小児ハ母係
 臨産ノ効力ニ由テ大ニ腹痛生レテ右啼叫
 ニ氣息脈動ナリ面色青黯胎動セズ死モ死胎リ
 如シ故ニ淺陋廉忽ノ医人曾意ヲ加ヘス死胎ト
 スルヲアリ此症ハ生氣肉畜シテ未タ絶マサル
 ニ且ニ療法ヲ施セハ生後スル者間々ニ精練之
 医ヨリ経歴ニテ尤ノ療法ヲ施スベシ
 救虚弱之初生兒如死胎者法
 ハ思生シテ脐帯ヲ截リ結ビ取揚テ見ルニ啼叫
 セス呼吸脈動ナリ面色黯慘ニシテ然テ生後リ

候十キ者ハ尤ノ療法ヲ施シムハシ
 才一水ト兩ノ等分ニシテ微温ノ浴湯トシテ児
 ニ湯中ニ浸シ毛織ノ布巾ニテ全身ヲ遍リテ擦
 シ殊ニ脊ト腹トヲ摩スヘシ然氏心ヲ用テ緩除
 ニスヘシ廉蒸ニスルト勿レ
 才ニ右ノ如リ厚摩スル中ニ顛顛心腎ニ柿キ鹿
 角精ヲ擦シ又之ヲ鼻ニ畜シメ或ハ烏毛ヲ以テ
 鼻中ニ刺ヘシ
 才三右ノ如リメ効ナリ蒸後セザル寸ハ小児ハ
 鼻ヲ塞徐々氣ヲ口ニ吹入レテ肺ヲ張ラシメ午
 ヲ以テ寸息ノ胸腹ヲ肺臟ヲ徐々按ヒ下スベシ

○又。微温湯ニ塩ヲ加ヘテ汽勝法ヲ施シ而後綿
 布ヲ温メテ小児ヲ巻リヘシム。
 右ノ諸法ヲ一取斗リモ頻リニ施ス件ハ死胎
 一如キ小児モ蘇活スルコトアリシハノノ経験
 スル処ナリ。
 才四或ハ初生兒面色青リシテ呼吸ノ窒ヤク
 如ク鬼ノ総テ生活ノ候ナキハ速カニ臍帶ヨリ
 一二許リ血ヲ出シ又水ニ砂糖少許加ヘテ院
 腸法ヲ施シ而テ氣ヲ肺ニ吹入ル并ニ前法ノ如
 諸部ヲ戸擦スルハ生活スルナリ。
 才五小児生レテ一二取過キ口中シハノノ粘稠

液滿テ流出シ面部青色ニナレモノアリ此症ハ
 可粘液ヲ口中ヨリ引出シ水ニ砂糖ヲ加ヘテ院
 腸法ヲ施シ又才ノ方茶匙ニ一抄ヲ吐下スルマ
 テ少クハ飲シムヘシ

示方

父ルタリスス 正火ナリス 製瀉劑家ハ碎
 右水四十八錢ニ溶化ス

日之晚行一笛橫
從疲呼吸肺癆生
若使師曠是必戒
君先止者以鄙聲

岸園宗古公戒笛僻

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

且以晚一笛橫從疲呼吸
肺癆生若使師曠是必戒
君先止者以鄙聲

岸園宗古公戒笛僻

三

